

令和6年度第1回花巻市社会教育委員会議 会議録

開催日時 令和6年7月29日(月) 午後2時00分～午後4時10分

開催場所 花巻市役所本館3階 302・303会議室

出席者 委員出席者14名 菊池豊議長、堀合範子副議長、浅沼清智氏、佐々木淳一氏、伊藤昇氏、高橋和也氏、佐藤睦朗氏、松葉孝博氏、小国朋身氏、千葉憲一氏、高橋福子氏、菊池清氏、高橋典人氏、渡部久美子氏  
委員欠席者6名 福盛田弘氏、浅沼由美子氏、菊池朋子氏、木村直樹氏、佐々木さつき氏、大竹佐久子氏  
事務局 7名 生涯学習部 菅野部長  
生涯学習課 梅原課長、菊池課長補佐、鈴木生涯学習係長、吉田主査兼社会教育主事、石垣主事  
生涯学園都市会館 蜂谷副館長兼社会教育主事  
説明者 4名 スポーツ振興課 菅原課長  
花巻図書館 鈴木館長  
花巻市総合文化財センター 上野所長  
花巻市博物館 村田副館長

報道機関 なし

傍聴者 なし

- 次第
- 1 開会
  - 2 あいさつ
  - 3 委員紹介
  - 4 議題
    - (1) 令和6年度の生涯学習・社会教育事業の実施計画等について
    - (2) 令和7年度の生涯学習・社会教育事業について
    - (3) その他
  - 5 その他
  - 6 閉会

1 開会 (開会 午後2時00分)

事務局(菊池生涯 本日はお集まりいただき、誠にありがとうございます。開会に  
学習課長補佐) 先立ちまして、本会議の成立についてご報告いたします。

本日、欠席報告をいただいております委員は名簿順で申し上げますと、3番の福盛田委員、5番の浅沼委員、9番の菊池委員、10番の木村委員、17番の佐々木委員の5名です。

まだ、遅れていらっしゃる委員はおりますけれども、花巻市社会教育委員会議運営規則第7条の規定によりまして、本会議は委員の半数以上の出席により成立いたしますが、現在20名のうち11名の方がいらっしゃいますので、本会議が成立いたしますことをご報告いたします。

また、今年度は社会教育委員の改選期となっております。改めまして、委員をお引き受けいただきましたことお礼申し上げます。なお、委嘱状でございますが、本来であればお1人お1人にお渡しするところでございますが、座席配置にて交付に代えさせていただきます。ご了承くださいませようお願いいたします。

続きまして、資料の確認をお願いいたします。事前に郵送でお渡しをしております資料に加えまして、本日お配りした資料でございます。お揃いであるかの確認です。たくさん配っておりますので、説明が長くなりますがよろしくをお願いいたします。

まずは、表紙と名簿です。続きまして、右上に資料1と書きましたA3横長の『第3期花巻市教育振興基本計画「3生涯学習の推進」』と書かれたものです。次に、『新しい図書館の検討状況』と書かれた、A4版の大きさのものが1つ。文書になりますが、『配布書類について』というものです。A4版の書類になりますが、岩手県社会教育連絡協議会からの配布のものになります。4種類配布がございます。1つ目が『ニュースレターNo.28』、2つ目が『令和6年度社会教育委員活動活性化セミナー実施案内』、3つ目が『令和6年度第16回助成事業募集案内』、4つ目が『社教情報第91号購入申込チラシ』と書かれたものになります。次に、『令和6年度生涯学習事業計画』ということでA3版のものと、A4横のものが添付してございます。次に、資料の提出方法についてということで、A5版の用紙を添付してございます。最後に、第46回全国公民館研究集会と書かれた文書を添付してございます。

以上になりますが、お揃いでしょうか。たくさん申しあげましたので、もし足りないということがあれば後からでも結構ですのでお声がけいただきたいと思っております。

それでは、ただいまから令和6年度第1回花巻市社会教育委員会会議を開会いたします。はじめに、菅野生涯学習部長よりごあいさつ申し上げます。

## 2 あいさつ

事務局（菅野生涯学習部長）

本日は、お忙しいなか花巻市社会教育委員会会議にご出席いただきましてありがとうございます。今回は、委員の任期が始まってはじめての会議ということですが、今後2年間どうぞよろしくをお願いいたします。

また、7月19日に文化会館で岩手県公民館大会・社会教育委員研究大会が、『「いつでも・どこでも・だれでも」そのために社会教育ができること』というテーマで開催されましたけれども、出席いただいた委員の皆様には改めてお礼申し上げます。

さて、先日花巻東高等学校が2年連続12度目の甲子園出場を決めました。花巻東高等学校の女子も全国高等学校女子硬式野球選手権大会において決勝に進出し、甲子園でプレーすることが決定いたしました。

また、花巻南高等学校の女子ソフトボール部も長崎県で行われているインターハイで県勢初となる3位入賞という結果を出すなど、今月は高校生の活躍で市内に明るいニュースが流れたというのは、皆様ご存じのとおりだと思います。

8月になりますと、現在開催中のパリオリンピックに石鳥谷町出身の中野慎詞選手が自転車競技のチームパシュートとケイリンに、また、花巻北高等学校出身の高橋和生選手が陸上競技の男女混合競歩リレーに出場いたしますので、委員の皆様もぜひ応援していただければと思います。

スポーツの話ばかりになってしまいましたけれども、花巻市の生涯学習・社会教育の事業につきましては、他の事業と同様になります。やはりここ数年間新型コロナウイルス感染症の関係で規模が縮小というような形になってしまっておりましたけれども、昨年5月の5類感染症への移行に伴いまして、ようやく通常の形に戻ってきたのかなと思っております。

本日は、令和6年度の事業計画等につきまして、また令和7年度の事業についてという議題にしておりますけれども、委員の皆様から様々なご意見を伺い、今後の事業につなげていければと考えておりますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### 3 委員紹介

事務局（菊池生涯  
学習課長補佐）

続きまして、委員の皆様のご紹介とさせていただきます。お手元の名簿をご覧くださいと思います。大変恐縮でございますけれども、名簿順でお名前・所属など自己紹介をお願いいたします。

（委員紹介→説明職員、事務局紹介）

それでは、続きまして次第のほうには表示してございませんが、委員改選に伴いまして議長、副議長の選出を行いたいと思っております。

議長、副議長の選出は、花巻市社会教育委員運営規則第6条の規定によりまして委員の互選となっておりますが、委員の皆様からの互選はございますでしょうか。

(事務局案との声あり)

事務局案という声がありました。事務局案ということでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは事務局案という声がありましたので、事務局案を提示させていただきます。事務局案として、議長に菊池豊委員、副議長に堀合範子委員をお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

はい、ありがとうございます。

それでは、議長は菊池豊委員、それから副議長は堀合範子委員をお願いをいたします。お二方は、それぞれ議長席、副議長席へご移動をお願いいたします。

はい、それではご着任いただきましたので、改めまして菊池議長、堀合副議長それぞれから簡単にごあいさつをいただきたいと存じます。よろしく願い申し上げます。

菊池豊議長

菊池豊です。よろしく願いいたします。これで3期目になります。いろいろ皆様に意見をお聞きしながら、よりよい社会教育の発展にいくらかでも寄与できればと思っています。どうぞ忌憚のないご意見をお寄せいただいて、会議を進めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

堀合副議長

堀合と申します。今年度も3分の1過ぎましたが、今日の皆さんのたくさんの発言が、今後の今年度の活動に活かされるものと思っております。どうぞ忌憚のないご意見をお願いいたします。以上です。

#### 4 議題

事務局(菊池生涯学習課長補佐)

ありがとうございます。

それでは、議事のほうに入らせていただきたいと思いますが、ここからの進行につきましては、議長、副議長をお願いしたいと存じます。

はじめに、会議の公開基準に基づき、会議の公開について確認させていただいたのちに議事進行をお願いいたします。菊池議長よろしく願いいたします。

菊池豊議長

それでは、公開の確認をしたいと思えます。花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議を公開することでもよろしいか伺いたいと思えます。いかがでしょうか、公開でもよろしいでしょうか。

(異議なし)

はい、それでは公開で進めたいと思えます。

それでは、続いてこれから審議に入りたいと思えます。まず、

令和6年度の生涯学習・社会教育事業の実施計画についてということになります。

そのあと、スポーツの振興について、それから芸術文化の振興の3つに分けて説明いただきたいと思います。

まず、1つ目の生涯学習の推進の説明が終わりましたら、その後質疑としたいと思います。同じように、スポーツの振興、芸術文化の振興についても、説明が終わりましたらご意見をいただくということで進めてまいります。

それでは、まず先ほどお話ししました令和6年度の生涯学習・社会教育事業の実施計画等について、事務局の説明をお願いいたします。

事務局（梅原生涯学習課長）

それでは、私のほうから最初に説明をさせていただきます。座ったままで、説明させていただきます。

生涯学習の推進の社会教育に関する事業について、令和5年度の主な事業報告に少し触れながら、令和6年度の主な事業計画のご説明をしていきたいと思います。

最初に、1. 自主的活動の推進の生涯学習講座開催事業についてですが、説明に先立ちまして、申し訳ございませんが、事前配布資料の訂正をお願いしたいと思います。令和5年度の主な事業報告の上から一番目の市民講座の開催ですが、各総合支所の実績について、大迫の延べ受講者数を資料では「115人」としてありますが、正しくは「111人」になります。同じく東和で「4講座12回、延べ受講者数197人」と書いてありますが、正しくは「4講座11回、延べ受講者数177人」になります。次に、6番目の家庭教育支援講座、こちらの親子向けの参加が「10組」と書いてございますが、正しくは「14組」ですので、お詫びして訂正させていただきます。よろしくをお願いいたします。

それでは、説明に移らせていただきます。生涯学習講座開催事業につきましては、令和5年度に開催した講座等の実績は資料のとおりでございますが、そのなかで地域生涯学習担当者研修においては、Zoomを利用した研修を実施したほか、実験的に研修のオンライン配信を行いました。このオンライン配信につきましては、今年度富士大学花巻市民セミナーなどの座学講義でYouTubeによるオンデマンド配信をしたいと考えておりますし、先月実施いたしました市民講座「はなまき暮らし部～さき織り体験～」においては、講師の作業風景、主に講師の手元ですけれども、そちらをあらかじめ動画を撮影しておいて、参加者が受講後に復習できるように動画配信をいたしました。このほか、生涯学習講師による講座のオンデマンド配信も、講師の皆さんに協力いただきながら取り組んでいく予定です。

次に、生涯学習活動支援事業でございますけれども、こちらはふれあい出前講座、生涯学習フェアとも令和5年度は前年度よりも参加者数が増加しまして、なかでも生涯学習フェア（まなび学園祭）は4年ぶりに通常開催いたしまして、出展者や来場者の皆さんから好評でしたので、今年度においても、市民の自主的な生涯学習活動を支援し、活動の成果を発表する場として、まなび学園祭を開催し、たくさんの方に見ていただいて、そして、見ていただいた方々にご自分の生涯学習のきっかけとしていただけるよう取り組んでまいりたいと思っております。

また、前回令和5年度の第2回目の社会教育委員会議でもご意見をいただきました生涯学習講師の謝礼金額については、来年度から増額できるように、金額の見直しを令和6年度内に行うことで検討しているところです。また、生涯学習講師を対象としたスキルアップに関する研修についても、あわせて今年度検討したいと考えております。生涯学習活動支援事業については、以上です。

鈴木花巻図書館長

続きまして、③の視聴覚教育推進事業について、花巻図書館鈴木より説明させていただきます。

視聴覚教育推進事業は、主に映像資料などを活用して生涯学習に役立てていただくための事業でございます。視聴覚教育ライブラリーではDVDや16ミリフィルム、VHSビデオテープなどの資料を保有しております。こちらを学校や団体に貸し出して活用いただいております。学校や官公署などへの貸し出しは、昨年度251回、観覧者数が6,628人ということでコロナ禍の落ち込みからだいぶ回復をいたしました。観覧者数は令和4年度に比較して2倍以上、また、利用回数、観覧者数ともにコロナ禍前の令和元年度に比較して95%のところまで増えてまいりましたので、だいぶ戻ってきている状況でございます。

それから、16ミリ映写機の操作技術講習会を開催しております。例年、10人程度の募集をさせていただいて、昨年は7人の方に参加をしていただきました。図書館の職員ですとか生涯学習に関わる方々にご参加いただいております。

続いて、映画会の開催でございます。夏休み、冬休みに市内図書館4館で開催しております。ここで、申し訳ございませんが数字の訂正をさせていただきます。参加者延べ「605人」とありますが、正しくは「430人」でございます。お詫びして訂正をいたします。申し訳ございません。こちらのほうの数字も、昨年度の379人から大幅に増えておりますので、参加者が増えてきているという状況です。

それから、花巻・大迫・石鳥谷・東和のそれぞれ4館で、子ども向け、大人向けの映画会を開催しております。どちらも少しづ

事務局（梅原生涯  
学習課長）

つですが、人数が増えてきているという状況でございます。引き続き、開催してまいりたいと考えております。以上でございます。

次は、生涯学習施設整備事業の説明をさせていただきます。令和5年度に計画していた事業については、資料にあるとおり、すべて予定どおり工事等を実施いたしました。

今年度は、大迫の沢崎と中乙、両生活改善センターの耐震改修工事や実施設計を行いますし、市民の家については、現在登録有形文化財に登録できるかどうか、また、1・2階の中の部分をどのように利用していくかを検討しているところですが、その判断材料となるように活用方法の検討を含めて、専門家に調査を依頼する予定でございます。

鈴木花巻図書館長

はい、続いて読書活動推進事業です。上から説明させていただきます。ブックスタート及びブックスタートプラス、フォローアップ、これは5か月児と1歳6か月児を対象として、健診などの際に保健センターで絵本の読み聞かせと絵本のプレゼントを行ったものです。5か月児の参加者数、1歳6か月児の参加者数はこちらに記載のとおりですが、子どもの数が減ってきているということで少しずつ参加者数は減ってきてはおりますが、ほぼ100%の方々に本をお渡しすることができております。また、参加できなかった方々に、年度末に改めてお声がけをしてイベントを開催しているものが、このフォローアップ事業として開催を記載しているものでございます。

それから、花巻図書館はじめ4館で子ども向けのおはなし会、絵本を読んだり、手遊びをしたり歌を歌ったりというイベントを、このとおりの回数で開催しております。

また、みんなでライブラリーという図書館に親しんでいただくためのイベントを開催しております。昨年度は年4回開催いたしまして、参加者数は374人。4回目のクイズラリーの参加者が一番多かったのですが、それ以外もだいたい1回当たり10～20人に参加いただいております、定員以上の申し込みをいただいた回もでございます。

次に、読書活動推進スキルアップ講座でございます。読書活動をされている方、ボランティア活動などをされている方を主に対象として、読み聞かせですとか本の修繕などの事業を行っております。昨年度は4回開催しました。

それから、読書おもいで帳の発行でございます。これは、読書をするための動機づけとして、貯金通帳のようなものに記帳する専用の機械で自分が読んだ本のタイトル等が印字されるというもので、中学生までを対象として行ったものでございます。今年度からは、大人も対象としております。のちほど説明させていただ

事務局（梅原生涯  
学習課長）

きます。以上です。

次は、図書館整備事業について、昨年度は資料にございますとおり、新花巻図書館整備基本計画試案検討会議を開催いたしまして、新図書館のサービスと機能面についておおむね方向性を整理いたしました。

また、建設場所については、候補地が2か所に絞られてきたものの、意見の集約には至っていないと考えておりますので、その2か所の建設候補地比較調査を現在実施中でございます。

そして、今年度の重点といたしましては、先ほどご説明いたしました比較調査、こちらを引き続き実施いたしまして、比較調査の結果も用いながら、建設候補地選定に向けた市民同士の意見交換を実施していきたいと考えております。この意見交換の方法については、ただいま公募型プロポーザルにより、その手法と運営業者の選定を進め、実施に向けて準備を進めているところです。

鈴木花巻図書館長

⑦の図書館改修事業です。

昨年度は、東和図書館の北側トイレ改修、それから花巻図書館の改修という事業がございました。

まず、東和図書館ですが、トイレが2か所ありまして国道側の管理棟と反対の南側でございますが、その管理棟側のトイレの改修をいたしました。水回りを含めての改修をいたしました。

それから、花巻図書館の改修でございますが、こちらは花巻図書館の建物が50年経っておりますが、建築基準法上問題があるということがわかりまして、そちらを改修するための工事を行う予定だったのですが、落札業者がなく実施ができませんでした。

そのため、今年度また予算を確保いたしまして、これから入札を行って今年こそ実施するという状況でございます。その前に書いてあります東和図書館のほうは繰り越しをいたしまして、6年度すでに6月で完了いたしましたので、工事自体は終了しております。以上です。

事務局（梅原生涯  
学習課長）

続いて、ページをめくっていただいて4ページ目になります。2. 青少年健全育成の推進というところで、青少年活動推進事業になります。令和5年度事業については、資料のとおりでございます。はなまきおもしろ探検隊、20歳のつどいとも、高校生や19歳から20歳のボランティアの皆さんに活躍いただいておりますが、両事業ともボランティアで加わった方々が主体的に事業に関わっていただいて、とても一生懸命取り組んでくださいました。そのおかげもありまして、参加者の満足度の高い事業になりましたし、ボランティアの皆さんの成長を促すことができたこと事務局としても感じております。参加者にとっても、関わったボランティアにとっても良い事業であるというふうにもっと思っていただけ



う、今年度も引き続き、同様に事業を進めてまいりたいと考えております。

次の、生涯学習に関連する事業のご説明をいたします。

2. 青少年健全育成の推進の(1) 青少年の非行防止、少年センター運営事業についてとなります。

令和5年度事業については資料のとおりですが、85名の少年補導委員の街頭補導活動回数が延べ322回、従事人数は延べ710人となりまして、コロナ禍以前の活動状況に戻ったというような状況です。今年度も引き続き同様の活動を実施してまいります。

続いて、3. 国際化の推進の国際都市推進事業です。

実績につきましては資料のとおりでございますけれども、生活講座では、初めて技能実習生などの外国人市民と日本人市民が一緒に受講する形で、防災講座やゴミ分別講座を実施いたしました。なかでも、防災講座は松園振興センター（技術振興会館）を会場にしまして、日居城野地区コミュニティ会議の皆さんと一緒にいきいとても好評でしたので、本年度も引き続きこのような事業を実施する予定です。

次のページに移ります。5ページ目、最初は、国際姉妹都市等交流推進事業でございます。令和5年度は4年ぶりに国際姉妹都市等との交流事業を再開いたしまして、中高生等をお互いに派遣、受け入れしましたし、ホットスプリングス市との姉妹都市提携30周年を記念して、相互に市民ツアーも実施いたしまして、これまでの交流を振り返りつつ、今後の交流継続をお互いに再確認したところです。

今年度は、引き続き中高生の海外派遣等の交流事業を進めるほか、コロナ禍において延期となっておりますラットランド市との姉妹都市提携35周年を記念して、ラットランド市からの市民訪問団が10月に花巻市を訪問していただくという予定になっておりますので、その時期に合わせて記念事業を実施してまいります。

続いて、国内友好都市等交流推進事業でございます。

こちらは、友好都市の平塚市や十和田市との交流を推進する事業ですが、こちらも令和5年度は4年ぶりに交流事業を再開いたしました。今年度は友好都市提携の十和田市とは35周年、平塚市とは40周年にあたる記念の年ですので、記念式典や市民ツアーなど記念事業を実施する予定でございますが、すでに今月上旬ですが、7月6日の平塚の七夕まつりに合わせまして、花巻から市民ツアーを実施して、ツアーに参加した市民の皆さんと一緒に平塚市で行われた友好都市提携40周年記念式典に出席したところです。国際化の推進につきましては、以上になります。

鈴木花巻図書館長

申し訳ございません。勘違いいたしまして6年度の話をしなか

ったものですから、もう一度図書館の説明をさせていただきたい  
と思います。

2ページ目の③視聴覚教育推進事業でございます。今年度も昨  
年度までと同様に、視聴覚ライブラリーの活用を図っていく事業  
を同様の内容で開催をしております。今後は、郷土資料の更なる  
拡充ですとか、子どもたちを対象とした活用がされるよう利用  
促進を図っていきたいと考えてございます。

続いて、3ページの⑤読書活動推進事業でございます。

こちら、今年度先ほど説明いたしました5年度とは違う部分と  
いたしまして、みんなでライブラリーの開催を2回としています。  
4回開催はいたしません、内容を濃くしての2回開催としてお  
ります。すでに、1回目のエーデルワインの施設見学は、エーデ  
ルワインさんにご協力いただいて歴史などを教えていただく「大  
人の社会科見学」というものを実施いたしまして、大変好評でご  
ざいました。

それから、9月には「“えほん”と“おと”であそぼう！」「言  
葉と音のものがたり」いう、絵本と音楽、音楽といってもそれほ  
ど大きな音で演奏するわけではありませんが、絵本と音楽を合わ  
せたイベントの開催を予定しております。

それから、読書活動推進スキルアップ講座ですが、今年度は3  
回の開催を予定しております、読み聞かせとか、図書修繕の内  
容の講座を開催いたします。

そして、読書おもいで帳の発行でございますが、4月から大人  
の方、高校生以上を対象にということで発行を始めました。4月  
～6月の3か月で約200冊ほど発行させていただいております。

続いて、⑦図書館改修事業でございます。昨年度入札不調に終  
わりまして実施できませんでした花巻図書館の改修を、今年度は  
実施しております。壁面の防火のための資材を使っていない部  
分があるとか、一部の施設を増築してしまっていたとかそういった  
ものを直す工事を実施いたします。

大変失礼いたしました。以上でございます。

菊池豊議長

それでは、ここまでで質疑を取りたいと思います。4ページの  
中ほど、生涯学習に関連する事業の前までで質問あるいはご意見  
がある方。

千葉委員

生涯学習推進センターの千葉でございます。この度、仲間に入  
れていただきありがとうございます。

私のほうから学びたいと思ったところ、1ページ目社会教育に  
関する事業の中段の令和5年度まとめとして、新しく生涯学習サ  
ークルが立ち上がったというところ、これをちょっとお聞きした  
いと思っておりました。どういった経緯で、どういったものが、

事務局（梅原生涯  
学習課長）

どういった方々がサークルを立ち上げたのかお聞きしたいです。

はい。こちらは市民講座に参加した皆さんが、全部で2回という市民講座だったですけれども、もっとやりたいということでサークルを作って、今もまなび学園の学習室などを借りて自主的に活動されています。手作りでものを作るものだったのですけれども、エコクラフトの2回講座。サークルとして、もっと作りたいということで。年代的には、50代以上の女性が中心ですね。

千葉委員

素晴らしいという取り組みだと思っているのです。実は、これこそが国が求めているものなのです。人づくり、地域づくり、関係づくりをつくっていただきたい。何かというと、私たちがやっていることというのは、地域の方との人と人とのつながりをつくって、そこで様々な活動をする。エコクラフトをするとすると、成果物をどうするのかと続きをイメージするではないですか。そのときに、またいろいろな方が関わってくるのだろう、そういうところで交流するということが、すごく大事になってくると思っています。私、この間東北の生涯学習センターの所長等の学びのときに話し合いがありまして。そのときに、「高齢者学級というのは、来るだけでいいんだよ。」と。来るということはどういうことか、病院に行っていないですよってということだったんですよ。なるほどなと思ひまして。そうやって、様々な方が元気に関わっていけるということは、自主的に能動的に動くという意味というのは、やっぱりこの新しい学習サークルをつくり出すというのが、本当に花巻市さんの成果なのだっていうこと素晴らしいなと。

これは、なかなか自分達が踏み込めるように、人が育つということとおこがましいですけれども意欲を持って前向きに取り組めるということになるということが、本当に素晴らしいことだと思っております。私のなかでは、やっぱりそういう講座がもっともっと増えていけばいいなと思っておりますので、さすがだなと思ひました。以上です。

菊池豊議長  
高橋福子委員

はい。ほかにございますか。

生涯学習講師をしている高橋と申します。事業報告の人数が、もし可能であれば男女別に掲載してもらえるとありがたい。それと、もし分かるのであれば年代別だと、この年代がやっぱり講座に来ないというのがよくわかると思ひて。もし可能であれば、少なくとも男女別には欲しいかなと思ひました。

もう1つは、この間の7月19日の社会教育委員研究大会のときも、公民館の社会教育と地区センターの生涯学習の中身がやはり課題というようなことが、北上の地区センターの方々から事例発表されていて、どうしても何かまちづくり講座のほうに傾いてく

るということなので、地域生涯学習担当者研修の中身についてどのような研修をされているのか教えていただければと思います。

菊池豊議長

はい、それでは受講者の男女別、それから年齢ですね。それから、地域生涯学習担当者研修の中身をお願いします。

事務局（梅原生涯学習課長）

はい、受講者の年代別のほうは何歳代というふうな形では入っておりますので、そのようにしていきたいと思います。男女別については、男女別で聞いているものもありますけれども、今あまり性別を聞かないところもありますので、できる範囲になりますが、そこは検討したいと思います。

あと、生涯学習の担当者向けの研修ですけれども、昨年度の例を申し上げますと、各地域の事例発表ということで、こんなことをやっているというような事例発表をしていただいたのが1回目。次は、各地域でいろいろな生涯学習講座をしていくと思いましたが、講座企画の助けになるようなまち歩き講座を企画したものに参加いただきました。さらに、さをり織りという、この前の県大会でも障がいのある方と一緒にいろいろな事業を進めていくというような、そういうことを講演でお話いただきましたが、ルンビニー苑でさをり織りをしている皆さんと一緒に作業しながら体験をする機会を設けるということもやりました。

あとは、各地域にどういうニーズがあるのかというところで、生涯学習系のほうで総合支所単位に出向き、その地域の振興センターの担当者にも来ていただき、求めるものなどの聞き取り等をしております。そういった形で昨年もやりましたので、今年度も同じように続けていきたいと考えております。

菊池豊議長

はい、よろしいですか。ほかに。

なければ、私のほうからですね。各講座の受講者数を書かれています。どれぐらいの受講者であればこの事業として適切な数値というような、何か目標的なものはあるのですか。ある事業を見ていったら、40人参加することもあれば9人しか参加しないとか7人だけですよというものもあるんですけど、そのあたり、狙っている数字はどれぐらいなのでしょう、担当のほうとしては。

事務局（梅原生涯学習課長）

それぞれ講座に定員がございますので、少ない定員のときには参加者も少なくなるということはあるんですが、目標とする数値は掲げておまして、ほぼそこはクリアしているという数値になってはおります。しかし、まだ足りない部分もあるので、いろいろ内容も含めて考えていきたいと思っています。

例えば、現在参集だけで行っている講座を、オンデマンドにより家で見ることができる、好きなときに見ることができるようにするとか。そういったものだったり、年代層が上の参加者が多いという部分もあるので、若い世代の方も来てくださるような中身

を考えたりとか、そちらのほうに重点を置いてやっております。

菊池豊議長

はい。例えば富士大の市民セミナーは、6回開講して44人しか受講してないということになるのですが、そのあたりはどうしたのでしょうか。やはり、内容が良くないのか。

事務局（梅原生涯学習課長）

そうですね、富士大の花巻市民セミナーのことで言えば、ちょっとこちらで思っているよりも参加者が少なかった。内容はとても良いものだったのですが、タイトルがちょっと難しかったかなというところもございますので、今年の企画段階では、わかりやすい講座のタイトルや内容として、チラシでお知らせするときもわかりやすい内容を心がけようと思っております。

菊池豊議長

はい。やっぱり研究者ですから難しいようですね。そのところ、このようなところでお願いしたいということは言っていたほうが、大学としても対応しやすいと思いますのでよろしく願います。

はい、ほかには。

菊池清委員

菊池と申します。関連するかもしれない、あとで言おうかとも思ったのですが、私も先日公民館大会・社会教育委員研究大会に参加してまいりました。

分科会等も参加して、そのときにいろいろ聞いたり見たりしてきたときに、「継続する」「変化する」「考え続ける」「頼り続ける」という言葉があったのです。それは、どういうことかということ「継続する」というのはコロナ禍前に戻す、戻してそれが何%になったとか、必要である行事やイベントなので、それはそれで大切にしていって、それだけニーズもあるだろうということなのですが。やはり、事業の見直しもして新しい層を取り入れていく。そのあたり、あつてほしくないことであつただけけれども、コロナ禍は見直すきっかけになるのではないかということもあつた。「変化する」というものがあつて、さらに継続して悩み続けてもっと良いものにしていこうという話もありました。

分科会で班に分かれているときも、「やっぱり、これって見直しのチャンスだよ」という話がありました。今、戻すことだけを考えておまして、それでちょっと新しいことがあつてもいいのかなとか。あと、やっぱりいつも思うのが参加者は参加者でこの位の人数になるのだけれども、結構同じ人が出ているのではないかというのは見て感じますので新しい人が参加できるものがあれば嬉しいかなというふうに思いました。

菊池豊議長

コロナ禍以後の取り組みについてですね。何かありますか。

事務局（梅原生涯学習課長）

その部分は、やはり私たちも、どういうふうにするのが一番いいのかということ、一生懸命考えながらというところがあります。オンデマンドの配信をしようというきっかけになったのも、

やはりコロナ禍だったわけで、いろいろな手法を取り入れるということ、昨年度あたりから少しずつやってきました。今年は、昨年度考えたことを形に、昨年度よりはもっと形になるものが多くなると思っていますし、中身についても、今まである程度同じ方が参加しているのではないかということは、こちらでもそのように感じているところもありますので、30代だったり20代だったり、若い方々が参加してくださる方法について、参集が難しい場合はオンデマンドであれば見てくださるかなどそういったところを考えながら企画したい。

この前の県大会、私たちは事務局としていろいろ企画しましたがけれども、自分たちも勉強したい内容を分科会で組んだということもございましたので、職員もかなり勉強して自分たちだったらこのように取り組めるとか。まだ、こうするという（完成形）のお話はできないのですけれども、さまざまな意見や事例を取り入れながら良いものを考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

菊池豊議長  
高橋福子委員

はい、ほかにございますか。

何度もすみません。これを(2)で聞くことなのか、今質問すればいいのかをちょっと悩むのですが、この社会教育委員をさせていただいて、事業の検討をするときにどうしても自分を振り返ればいいことだけ書きたいのはそのとおりですので、5年度の主要事業報告について、とても良かった点を書いていただくことでこういう点はよかったのだなどは分かります。

ですが、そのなかに改善するところ、何か課題というようなものがなかったのかあったのか。それが、6年度とか7年度にどのように活かされるのかということが、この表だけだとあまりわからない。私たち委員の立場というのは、事業評価するわけではないので、そこまでなくていいものなのか。先ほど、議長の菊池先生がおっしゃったように、何人くればこれは良い講座だという。たいてい計画だと指標があって、それに対して今どういう状態なのかということがあるのですけど。いつも、「こういうことをしました、ここが良かったです。今年度はこのようにします。」という記載なので、これをどのように読めばいいのかということを確認したいと思います。よろしくお願いします。

菊池豊議長

それでは、課題になるようなものについて記載があまり見られないということなのですが、そのあたりはどうでしょうか。

事務局（梅原生涯  
学習課長）

資料の書き方については、どのような形が良いのかということを検討していきたいと思います。事業評価は、市の事業として実施しておりますので、事業評価の指標をそのままこの資料へ落とし込めばよいかということも含めて、検討させていただきたい

と思います。

菊池豊議長

以前、事業評価の指標をいくらか記載したこともありましたがよね。これから、少し課題についてもいくらかまとめた事項のところへ入っていれば、もう少し次の令和7年度に向けた意見等にも反映されると思うのですが。まず、資料はこれだけですので今挙げられたご意見についてはその次、令和7年度に向けたご意見等がありますので、そこで挙げていただき進めたいと思います。

はい、ほかにありますか。

堀合副議長

この席からですみません。この前の県大会の話が何人かから出ておりましたので、私も参加した方から聞いた意見で、コロナ明けということもあるかもしれませんが、分科会形式で、しかもその分科会が5～6人という話しやすいグループに分かれての分科会だったので、自分たちも意見を言う場がある参加型の県大会となってとても良かったという感想を聞いております。花巻が褒められたような気がして、大変嬉しく思いました。

それから、もう1点あります。今は、館主催の講座やサークルについてのお話ですが、生涯学習活動の支援ということについて、この前私がいつも読書会で使っている建物が暑くてエアコンのないところだったものですから、2日位前にまなび学園へ電話したところ上の学習室が空いているということで借りることができました。その場合、5人以上の団体であって、しかも読書活動は生涯学習の一環なので会場費はいらぬということを知り、半日600円というそんなに高額と言えない額ではないのですが、花巻はこういう形で民のサークルにも支援しているのだということを知りました。もちろん、エアコン代だけは使った分いただきますとのことでしたが、それでも本当に少額で私たち気持ちよく使わせていただきました。もっと、宣伝すればもしかして館主催でなくても、団体で使うところも出るのかなと思って、感謝を込めて今ご紹介したところでは。

菊池豊議長

はい、この項目について特にご質問がなければそれでは次です。4ページの中ほどから生涯学習に関連する事業の質問、ご意見があれば伺います。特にございませんか。

では、私のほうから2. 青少年健全育成の推進の(1) 青少年の非行防止についてなのですが、街頭補導活動を行ったと書いてありますが、補導した数というのはどのくらいなのでしょう。

事務局（管野生涯学習部長）

担当がいないので、代わりにお答えいたしますけれども、昔は実際補導ということもありましたが、今は声かけとか見守りというスタンスでお願いしています。なぜなら、地域の方でありますとか、先生方も入っておりますけれども、やはり警察ではないので補導というのは危険な行為も伴います。あくまで、声かけ、見

守りというスタンスで街を回ってもらうというふうにやっています。

菊池豊議長

今の子どもたちというのは、ずいぶんおとなしくなっていますね。なかなか昔のように元気な者は少なくなったということですし、対応も以前と違ってきたと。声かけを主体にやっているということだそうです。

それから、ラットランド市の35周年。これは、どこが最初に姉妹都市になったのか、石鳥谷町ですか。

事務局（梅原生涯  
学習課長）

石鳥谷町です。

菊池豊議長

分かりました。ほかにございますか。それでは、なければ次。

堀合副議長

それでは、スポーツの振興について説明をお願いいたします。

菅原スポーツ振興  
課長

それでは、スポーツの振興について、スポーツ振興課長の菅原と申しますが、私から説明させていただきます。

まず、1.生涯スポーツの推進ですが、1つ目は地域スポーツ推進事業でございます。この事業は、各地域における生涯スポーツの推進を図るということで、スポーツ推進委員などを配置しましてその活動を支援するということと、市民がスポーツに親しむ機会を提供するということを目的に実施している事業でございます。令和5年度につきましては、令和5年5月にコロナが5類に移行したということで、ほぼ通常どおりのイベント、大会等が開催できたところですが、スノースポーツフェスティバルにつきましては、2月の雪不足により実施できなかつたところでございます。今年度につきましては、引き続きスポーツ指導員等を配置、あるいはスポーツ教室やイベント等を開催することで、生涯スポーツの推進に努めていきたいと考えております。

続きまして、2つ目の地域スポーツ支援事業でございます。この事業は各地域における生涯スポーツの推進活動の支援ということでスポーツ団体等に対して助成を行っているものでございます。令和5年度につきましては記載のとおり、団体等への支援ということで、体育協会あるいはスポーツ少年団のほうに補助金を交付しておりますし、総合型地域スポーツクラブの活動支援ということで補助金交付制度を新たに創設いたしました。これは、1団体が設立準備段階でございますが、そちらのほうへ設立準備の支援ということで補助金を交付しております。

令和6年度につきましても、引き続き同じように体育協会が実施する事業への補助、あるいはスポーツ少年団が実施する事業への補助、そして1つ記載が抜けておりますが、総合型地域スポーツクラブの活動支援ということで、設立準備に関する補助を予定しております。なお、総合型地域スポーツクラブの設立準備への



補助については、国の宝くじ助成について市を通して交付しているのですが、2か年継続事業ということで令和6年度につきましても引き続き交付を予定しております。

続きまして、2. 競技スポーツの推進ということで競技スポーツ支援事業でございます。この事業は競技レベルの向上と指導レベルの向上を図るため大会出場者への支援、あるいはスポーツ大会の開催支援を目的に実施している事業でございます。令和5年度につきましては、全国大会出場への補助、市内で開催するスポーツ大会に対する補助金交付を通じまして、競技スポーツの推進に努めたところでございます。東北総合体育大会につきましては岩手県を会場に開催いたしました。令和6年度につきましても、全国大会出場支援、県民体育大会出場支援、あとは各種スポーツ大会の開催支援を行ってまいります。各種スポーツ大会ですが、今年度は新規として第60回の東北高校駅伝も予定しております。

続きまして、3. 大規模スポーツ大会の開催ですが、まず、スポーツ大会・合宿誘致推進事業でございます。こちらの事業ですが、交流人口の拡大を図りスポーツに接する機会を提供するためにスポーツ大会、あるいはスポーツ合宿の誘致を図ることを目的に実施している事業でございます。令和5年度につきましては、スポーツコンベンションビューローが主体となりいろいろな合宿誘致に努めたところであり、補助金を交付したのが東京経済大学の硬式野球部と、上智大学の硬式野球部の2件ということでございますし、あとはローイング日本代表の合宿の受け入れをしております。こちらは、田瀬湖ボート場で受け入れをしております。令和6年度につきましては、同じく様々なスポーツ合宿等の誘致等を行っているわけですが、大学の野球部合宿が東京経済大学と上智大学がいらっしゃる予定となっておりますし、田瀬湖ボート場では東京外国語大学のボート部が合宿に来るということで現在3件を予定しているところでございます。

次にはなまきベースボールフェスタ開催事業でございますが、これは令和5年度の実施で、今年度実施はなしということですが、こちらの事業は平成30年度から令和2年度の3か年で実施を予定していたものであり、平成30年度と令和元年度につきましては実施したところですが、令和2年度の事業がコロナの影響で実施を見送ってきたものであります。そのような中、令和5年度を迎えるにあたって埼玉西武ライオンズのほうからコロナも落ち着いてきたので実施を検討いただけないかということで、令和2年度に実施しようとしていたものを、令和5年度に実施をさせていただいたところでありますが、今年度については実施を予定していないということでございます。

次に、スポーツ施設環境整備事業ですが、スポーツ施設の快適な利用環境を整えるということで計画的に施設の整備改修を行っているものであります。ご存じのとおり花巻市は非常に多くのスポーツ施設を有しておりまして、整備をしてもなかなか追いつかないという状況でございますが、令和5年度につきましては記載しておりますとおりの改修等を行ったところでございます。金額的にはスポーツ振興課分でございますが、約2億8,000万円ほどとなっております。令和6年度につきましても、順次記載のとおり工事等を今発注しておりまして、本日石鳥谷体育館の改修工事のほうも入札が終わりまして、これですべて今年度予定している工事については、発注済みという状況であります。

そのなかでもスポーツ施設の老朽度調査を行っておりますが計画的に改修を行っていくために市内スポーツ施設の老朽度を調査しているもので、だいたい10～11月頃には成果品ができると思っておりますので、それを基に具体的な整備計画について、今後構築していきたいと考えているところでございます。スポーツの振興については、以上でございます。

堀合副議長

それでは、芸術文化の振興についてもここで説明をしていただきたいと思っております。お願いします。

事務局（梅原生涯学習課長）

続いて、芸術文化の振興の部分のご説明をいたします。1. 芸術文化活動の推進の芸術文化推進事業についてですけれども、こちらからはじめに事前配布資料の訂正をお願いしたいと思います。上から2番目の花巻市民芸術祭のところで「32事業を予定うち1事業中止」と書いてあるのですけれども、正しくは「合計30事業を実施」となります。同じように6年度の計画も「32事業を予定」ですが、こちら「30事業」ということとなります。申し訳ありません、よろしく申し上げます。

5年度の事業についてですが、市民芸術祭を久しぶりにコロナ禍前と同じような形式で開催いたしまして、展示部門に合わせて、大ホールの舞台を使って市内の音楽や演劇、舞踊などの団体が舞台上で自由に発表できるような市民コンサートを実施いたしまして、市民の皆様が自分の都合のよい時間に様々なジャンルの芸術文化に触れるという機会を作りました。市民芸術祭については、今年度も同様に取り組んでいきたいと考えております。

また、小学生のためのアートセミナーがとても好評でしたので、昨年度定員を増やして開催したところですが、引き続きその定員を維持しましてこちら夏休みに開催しています。本日と明後日、増やした定員のまま開催しております。

次に、同じ芸術文化推進事業、こちらは文化会館の事業ということになります。昨年度の自主事業については資料にあるとおり

でございますけれども、特徴的なこととしては、手話通訳や音声案内のあるバリアフリー演劇を初めて開催したことと、音楽家の方が実際に小学校に出向いて演奏して、小学生に音楽体験をしていただくアウトリーチ事業を実施いたしました。

今年度の重点としましては、このようなアウトリーチの事業もですが、自主事業のほかにバックヤードツアーやアウトリーチなど体験型プログラムや、文化会館は花西地区にございますので、花西地区まちづくり協議会とのコラボレーションでいろいろな事業を、「ぎんどろ日和」という地域と一緒にやっている事業があるのですけれども、そういうものを開催するなど、多くの方に文化会館を有効に利活用していただく取り組みを行ってまいりたいと思っております。

次は、学校文化活動事業でございます。これは市民芸術祭の展示部門に合わせて、小中学生の作品を各学校から募集して展示するという事業でございますけれども、令和5年度はおおむね例年どおり各学校から出品いただきましたので、今年度も引き続き作品を展示していこうと考えております。それとあわせて、吹奏楽部などの舞台での発表、そういった子どもたちが舞台で発表できるような場を設けて、児童・生徒の文化活動の成長を広く公開する機会を作っていきたいと思っております。

次は、ページをめくっていただきまして、美術普及活動推進事業になります。こちらは、萬鉄五郎を顕彰する事業として萬鉄五郎記念美術館で行っている事業でございます。児童の写生会や萬鉄五郎祭などを行っておりますけれども、昨年度は4年ぶりにどちらも参集して行うことができました。

今年度も引き続き郷土の先人である萬鉄五郎を顕彰する事業として、市民の芸術文化に対する関心や親しみを向上させるために美術活動に取り組む機会を提供してまいりたいと思っております。

次は、萬鉄五郎記念美術館等整備事業でございます。令和5年度に萬鉄五郎記念美術館で空調設備の改修工事を実施したのですが、この空調設備のなかで大元の機械につなが電線ケーブルが全国的に品薄になっておりまして、年度内の納品が遅れて6年度に繰越したという事業です。無事に、先月のうちに完了して、今は快適な空調で企画展をご覧になれる状況になっております。

続きまして、先人顕彰推進事業に移ります。こちらは、令和5年度について内容は資料のとおりなのですが、そのなかで偉人マンガ「佐藤昌介物語」については、マンガを描いてくださったそのだつくしさんのトークイベントを開催いたしました。このマンガが大変好評で自分でも買いたいというような声を多数いただきましたので、販売用に偉人マンガを増刷しまして、税込

1,100円で現在文化会館事務室にて販売しております。

今年度も、引き続き共同企画展や先人ギャラリー展について展示内容を工夫して、より幅広い世代に先人への興味を持っていただいて、各館のほうへ足を運んでいただくきっかけづくりをしたいと考えております。

次は、宮沢賢治イーハトーブ館で実施しております宮沢賢治普及・啓発事業についてでございます。令和5年度の実績は資料のとおりですが、コロナが5類へ移行したということもございまして、入館者やセミナーの参加者ともに増加しております。今年度も、昨年度と同様に企画展やセミナーなどの開催を予定しております。

それでは、次は企画展示事業というところになります。これは花巻新渡戸記念館、萬鉄五郎記念美術館、博物館での企画展示事業になりまして、まず花巻新渡戸記念館でございますけれども、令和5年度実績は資料のとおりですが、来館者数については徐々に回復傾向にあるといったところです。

また、昨年度は市内の小中学校の団体鑑賞や出前教室の申し込みがございませんでしたので、6年度の重点として周知や広報をより充実に努めて、広く市民の皆さんに新渡戸家や稲造の魅力を発信することや、小中学校への学校団体見学や出前教室の開催をはたらきかけることとしております。

次に、萬鉄五郎記念美術館になります。昨年度空調工事がございましたので、例年より企画展が1回少なかったのですが、来館してくださった方にはとても好評でした。今年度も、引き続き芸術文化に関心や親しみを感じる市民を増加させることを目的としまして、4企画展を予定しております。現在、「オードリー・イン・シネマ」を開催中ですので、よろしければ足を運んでいただければと思います。以上です。

村田花巻市博物館  
副館長

4ページでございますけれども、花巻市博物館につきまして、花巻市博物館の村田と申しますが、私からご説明申し上げます。博物館におきましては、当館の学芸員が調査研究を行った成果を展示という形で行うテーマ展。それから、博物館以外の資料などを幅広く展示して、市民の皆様にご覧いただく特別展などを開催しているところでございます。令和5年度におきましては、資料4ページでございます5つの展覧会の開催をしてございまして、特に③の特別展としまして絵本作家の「かがくいひろしの世界展」を実施いたしましたけれども、絵本の魅力を広く紹介することができまして、年代を問わず多くの方々に来館をいただき、期間中2万人を超えるお客様にご覧いただくことができたということでございます。

それから、今年度につきましては、花巻市博物館が開館いたしまして、今年の4月で20周年を迎えたところでございます。開館20周年を記念いたしまして、今回令和6年度の②といたしまして「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展を現在開催しているところでございます。また、秋から冬にかけては「縄文ワールドー写真家・小川忠博の世界展ー」といたしまして、写真家の小川忠博さんという方の縄文の土偶ですとか土器の写真を中心とした展覧会を開催する予定としてございますので、こちらのほうも、また皆様にご覧いただければというふうに考えているところでございます。以上でございます。

事務局（梅原生涯学習課長）

続きまして、生涯学習に関連する事業として文化会館施設改修事業でございます。昨年度は、今後、文化会館の施設を長く利用していくために、施設の長寿命化を進めるための調査を行いましたので、今年度以降計画的に更新をしていく予定でございますが、今年度は劣化している屋上部分でしたり、文化会館の施設改修のなかでも緊急度が高い部分、受電変電設備、電気の部分ですけれどもその電気の大元の部分と、トイレについては利用者の方から長年お声をいただいておりますので、トイレ改修に係る実施設計を行うこととしております。

続いて、賢治のまちづくり推進事業でございます。昨年度は、宮沢賢治没後90年でありましたので、例年実施しております事業にプラスして没後90年記念事業を実施いたしました。事業内容については、資料のとおりでございます。今年度も、例年どおりの事業を計画しております。毎年好評いただいております童話村の森ライトアップにつきましては、7月20日から開催中でございます。

続きまして、企画展示事業です。こちらは、高村光太郎記念館と総合文化財センターになります。

最初に高村光太郎記念館につきましては、昨年度は資料に記載しております6事業を行いました。続いて、今年度の主な事業としましては、光太郎が花巻で過ごした7年間で描いた草木や花のスケッチを紹介する企画展など、企画展や関連行事・講座を通じて、光太郎についての理解を深め記念館を来館するきっかけとなるような、そういった事業を行ってまいりたいと思っております。以上です。

上野総合文化財センター所長

それでは、企画展示事業の総合文化財センターの事業についてご説明いたします。最後になります、6ページをご覧くださいと思います。総合文化財センターでございますけれども、令和5年度におきましては資料のとおり4つの企画展を実施しております。地域や世代、関心分野などを考慮して幅広い層の方々に

来所していただくことを目標として、埋蔵文化財のみならず、早池峰をテーマとした企画展、話題となる展覧会を実施してまいります。

令和6年度でございますけれども、資料のとおり4つの企画展を企画してございまして、1つ目の「SL 銀河写真展」につきましては、昨年度末から年度をまたいで継続開催させていただいたものでございまして、5月12日までで終了してございます。2つ目の企画展、「城下の手仕事・花巻傘」でございますけれども、こちらは6月20日から現在開催中でございます。こちらは、市指定無形民俗文化財であります花巻傘に焦点を当て、実施しているものでございます。和傘づくりは、東北では花巻と山形にのみ残る貴重な技術でございまして、市内で唯一花巻傘を作成しております滝田工芸さんのご協力をいただきまして、展示を行っております。こちらは、8月25日までの開催予定となっておりますので、もしご都合がつけばぜひ足を運んでご覧になっていただければと思います。3つ目でございます、市内各地域の遺跡に焦点を当てまして紹介する企画でございます。6年度は石鳥谷地域の遺跡を紹介してまいります。9月14日からの実施を予定してございます。さらに、4つ目の企画展でございますけれども、こちらは共同企画展となっております、文化財センターのほうでは、縄文時代の「人」にスポットを当てた企画展示を行う予定としております。こちらは、12月7日から実施予定でございます。以上でございます。

堀合副議長

スポーツの振興と芸術文化の振興について説明をしていただきました。この2つを一括して、ご質問とご意見をいただきたいと思っております。どなたかありませんでしょうか。

はい、小国委員をお願いします。

小国委員

小国と申します。スポーツの関係でちょっとお聞きしたいのですが、スポーツの施設、大変多いということがありますが、そのなかでスポーツも時代ごとに流行りというのか、新しいスポーツのほうも生まれてくるわけなのですけれども、例えばスケートボードとかスポーツクライミング、eスポーツとかが最近出てきているのですが、そういう施設を欲しいというような声は住民の中にはございますか。

菅原スポーツ振興課長

はい。そのとおり新しいスポーツということで、スケートボード（場）につきましては、日居城野運動公園の第三駐車場の脇のところにスケートボード協会からの要望により整備をされており、利用されているところであります。

あとは、スポーツクライミングにつきましては大迫体育館に設置しておりますが、それ以上の増設の要望についてはお聞きして

いないというところです。

あと、eスポーツにつきましては、名前にスポーツとついているので当課に来ることもあるのですが、生涯学習課が担当しております。

堀合副議長  
高橋典人委員

よろしいでしょうか。はい、それでは高橋委員お願いします。

スポーツ教室のところですけども、おそらく昨年と同じことを言ったと思いますが、鉛温泉スキー場のイベントのところなんですけれども、このとおり例年暖冬でどンドンオープンできなくて稼働率も下がっているし、私自身は自分が現役の頃は20年あそこに通って、もう12月の20日には雪がいっぱいあって普通に滑れたのに、今は雪が全然ない状態で。それでも、なおかつまだ鉛温泉スキー場でスキー教育をしなければならないのかというのがちょっと疑問なのだけれど。例えば、日にちをずらすとか、あるいはいっそ夏油まで行ってしまおうとか、そういうふうにして日にちは設定したのだけれど、雪不足だからスキー教室はできませんでしたという、スキーをやりたい人にとってはすごく残念、今年もできなかったなという思いしかないような気がするのですよね。やっぱり、そういう日にちの検討というのは、課の中でも出ているのでしょうか。

菅原スポーツ振興  
課長

スキー教室については市では企画しておりませんが、スキー場を利用したイベントとしてスノースポーツフェスティバルを、施設の利用促進という意味もございますので、実施をしているところでございます。

そのとおり、雪不足につきましては年々深刻な状況も増えており、特に令和5年度は2月に雪不足という異常事態でございまして、今後の運営等についても課内で話をしたところですが、鉛温泉スキー場は花巻市の市民が行くのにすごく近いですし、冬場のスポーツを推進するうえで非常に利用価値もあるのかなと思っております。あとは、温泉の皆様方がスキー場とタイアップした事業も展開しているなど、スキー場の継続を望んでおられるところもありますのですぐ廃止とかそういったことは考えていないというところでございます。

高橋典人委員

はい、ありがとうございます。個人的に可能ではないと思うのですけれども、いつも鉛温泉スキー場に行く度に思うのは、チャンピオンコースを削ってもっと初心者に優しくできないのかいつも思っています。私はずっと20年間滑ってきて、あそこを滑っている人を見たことがなかったので。もったいないような、あそこにリフトがあるのに何とかできないのかなど。今いますぐできる話ではないですけど、それはみんなが使う、市民が使いやすい、スキーを始めた子どもたちも含めて大人もそうですけれど

も、最後の一番速い初級コース、これが一番怖くて鉛けっこうハードル高いと言われているのですよね。ああいったところとか、コースの部分も考えてやったらもっといい、楽しめるのかなというふうに思っているのご検討いただければと思います。

菅原スポーツ振興  
課長

はい。鉛スキー場の地形につきましては国有林ということもあり、なかなかその手をかけるわけにはいかないというところもございます。いずれ利用しやすい施設という面では検討させていただきたいというふうに思います。

堀合副議長  
菊池豊議長

はい、よろしいでしょうか。

地域スポーツのところなのですが、今ですね中学校の部活動等が地域スポーツに移行していくというような動きがあるのですが、花巻市では今どのような移行状態、進行状態にございますか。

菅原スポーツ振興  
課長

はい。中学校の部活の地域移行につきましては、教育委員会の学校教育課のほうで主体になってやっております、年に何回か部活動等の在り方検討会議ということで開催されており、私もメンバーとして参加しております。今はできるところからやっというここと、地域クラブという部分も出てきておりますけれども、学校によっては人数が少なくて部活動ができないということもありますので、そういったところについては合同チームを推進しておりますし、あとはモデル校を指定して、地域の方々とか、あとは親御さんとかそういった方々の指導のもとに進めていただいているといったところもございます。地域クラブもだんだんと出てきておりますので、そういった部分についてはこちらでもいろいろと支援をしていかなければならないと思っているところでございます。

堀合副議長  
佐藤委員

はい、そのほか。

今、菅原課長も言ったように、私も委員をしております、その方向で進んでいます。合併型のチームがだいぶできてきました。だから、将来は社会に還元という形になるのだろうと思っておりますが、文化部の方が大変だろうと。講師とか、例えば吹奏楽であれば、楽器を教えるのが一つはできるけどみんなを（教える）とか、指揮をするのとか、それから集まってやる場所とか、文化部の方がちょっと苦労しているのかなというふうな気はしますけれども、皆さん知恵を出し合って社会で受け皿を作っという方向で進んでいっているというふうに判断しています。

堀合副議長  
佐々木淳一委員

はい、佐々木委員どうぞ。

今、中学校での部活動の話が出ましたので、状況をちょっと共有したいと思いますが、各中学校で部活動は任意加入になっています。なので、宮野目中学校だと83%くらいの生徒が自分で学校にある部に参加していますが、それ以外の子どもたちは別なものを



やるとか、あとは加入しないで違うような活動をしているという状況にあります。このなかで、やっぱり子どもたちコロナが明けた後も非常に頑張っていて、ここでも令和5年度にあるとおり、全国大会だとか東北大会に非常に多くの子どもたちが出場していて、そこにもたくさん補助金等をつけていただいたので、本当にありがたいなと思っているところです。バス代等が高騰していて、バスだけで何十万というふうになっているので、本当に学校だけでは大変なところ市のこういう補助金等で賄っていただいて感謝しております。

これから、やっぱり中学生も先ほどアーバンスポーツの話もあったのですが、だんだん活動の幅も広がっていくし、あとは生徒数も減ってくるので、単独でサッカー、野球だってチームが増えなくなると合同となって、地域にあるスポーツクラブに子どもたちが入っていて、そこが一つのチームになって中体連に出場するというような制度になってきていますので、今後こういう形でいろいろ地域スポーツもこういう受け入れ先となるクラブの方も充実させていただくことや、まだ学校での部活動も続いていきますので、このバランスを見ながらやっていくということになるかなと思っています。ただ、今指定校も決めています、ある程度教育委員会のほうで音頭を取っていただいて、数年間かけて地域に土日の部活を移行するというところをある程度増やしていこうという取り組みをしていますので、今後も様々な支援を受けながらも、学校が主体的に地域と連携して進めていかなければならないと思います。

堀合副議長

はい、ありがとうございます。そのほかございませんか。スポーツ振興と芸術文化の振興、どちらでもよろしいです。

それでは、(1)はこれで終了してよろしいでしょうか。議題の(2)令和7年度の生涯学習・社会教育事業について、事務局お願いいたします。

事務局（梅原生涯学習課長）

令和7年度に向けて、これといった資料は準備していないのですけれども、ご意見をいろいろいただければと思っております。

堀合副議長

来年度の予算編成にも関わることもあるかもしれませんが、今の皆さんからご意見をいただいていることのようなのですが、令和5年度、6年度を踏まえて来年度への提言等ありましたらお願いいたします。はい、高橋委員どうぞ。

高橋典人委員

私も7月19日に公民館大会に参加して、第3分科会でした。コロナ禍以降の公民館を通じた地域づくりということで、ワークショップ形式の全部で5つのグループに分かれて話し合いをしたのですが、どこでも出たのがコロナ禍によってやらなくなった行事、例えば神社の掃除とか草刈りは市に任せますよとか、そ

ういう細かいところ。それから、あるいはそれこそ Zoom にしたことによって、直接集まらないで広く参集を求めた事業が効果的だったという反面、公民館の主事の人たちも含めて対面でないことに対するコミュニケーションの断絶というのをすごく感じているということ、どこのワークショップのグループでも感じていて、私もそうなのですよ。私も、コロナの5年間ずっと Zoom でいろいろなところに参加したのですけれども、Zoom で最大のデメリットはサボることができるですよ。ビデオとマイクがあって、どちらもビデオを切ってミュートにすれば、画面の会場が見えていれば自分は何をしてもよいという話で。極端な話、寝ていても構わない世界になってくるのです。これが、実際に会場に行っていればそんなことは絶対できないです。まあ、できないということはないにしても、やっぱりその会場の空気というものを知るといこと、あるいはそこに行くといこと、途中までのそういったことが、今の人たち若い人は特に無駄だと考えているのですよね。時間的な問題あるいは距離的な無駄が省けるから Zoom がいいじゃないかと考えるけれども、いやそうではなくてそこに行く途中で行き来することとか、会う人との会話というのも大事なのだよと伝えていかなければならないようなことが、どのワークショップでも出されたのです。

なので、Zoom を活用するものはすごく大事なことだし、それによって参加者が増えることが一番いいのだけれども、そういうデメリットがあった上でどうやったらいろいろ効果的になるのかなというふうな感じで、これからはオンラインとか事業を考えていかなければならないのだというふうに、大会に参加していて思いました。感想です、以上です。

堀合副議長

今のは、感想としてご意見をいただくということによろしいでしょうか。

事務局（梅原生涯学習課長）

はい、オンデマンドを増やしていこうとこちらも思っておりますが、やはり参集、対面ができなくなったというお話は分科会でもいろいろ伺いましたので、どういう方法がいいのかというのはまだ手探りの部分もありますが、検討していきたいと思えます。ありがとうございます。

堀合副議長  
佐藤委員

はい、そのほか来年度に向けて。佐藤委員お願いします。  
大規模スポーツ大会の開催は市でそういう方針で進んでいるようなので、こないだ何かの会議で質問したときに、耐久年数は20年という設定をしているということ伺いました。花巻市総合体育館ができて25年、空調設備のほうがだいぶ冷えなくなってきた、大規模な夏場の大会というのを誘致するのにおいては、どうしても今のようなエアコンが故障したりするということであれば

大変なのかなと思いますので、ぜひ早めの改修をお願いしたいというふうに思います。

あと、もう一点。YouTube で見ることができるという話をされて、今こうやって (YouTube を) 見て花巻市の画像何個あるのかなとやってみたけれど、手作業でやるのが見ることができるという (動画) が (見ることができない)。どうやっても、仕掛けと仕組みという話で、やっていることは素晴らしいと思うのだけれども、どうやったら見ることができるというところが、特に私みたいな年寄りにとってはなかなかわかってこない。せっかくやっているのに、市のホームページの YouTube でとやってみても出てこない。そういうところがもっと伝わるような、簡単に見ることができるような仕掛けをつくっていただければというふうに思います。

事務局 (梅原生涯  
学習課長)

すみません。私の説明も悪かったのですが、講師の先生の手元が見ることができるというのは、参加した皆さんに QR コードをお渡しして、ご自分のスマホ等で読んでいただくと、さき織りだったので先生が布を切るところから、そういった作業をアップでご覧になれるというものをやりました。

あと、講座関係については、今までは期限つき、ずっと流すというよりはある一定の期間ということをやっていたので、今後は、皆さんに周知するようなものについては、ホームページにきちんと QR コードを掲載するなど全体に周知できるような方法を考えていきたいと思っています。今までは、限定配信ということで試しにやってきた部分が多いので、そこは考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

堀合副議長  
菊池清委員

よろしいでしょうか。はい、それでは菊池委員お願いします。

今、ホームページとか YouTube という話が出たのですけれども、いつも問題になるのがそういう環境にないという方が意外に多いのですよね。だからって、集まることができるかというところになるし、その人たちが集まりたいかという話になるとまた話は別になるかもしれないけれども。ホームページを見る環境にある人というのは意外に少ないということも、やっぱり把握しておくべきかと思ひまして。今は、何でもホームページをご覧くださいで、テレビを見ても何にしてもホームページを見ないと詳しくはまったくわからないという状態が結構ありまして。私も本当に詳しくはないけれども、家にはまだホームページを自分で見ることができる環境はあるけれども、意外と若い人でも家にはないからという声をよく聞くので。何をというのは私もちょっとどうやったらいいかわからないけれども、そういう人にも周知できるような方法も一緒に考えていただけたらと思います。

堀合副議長

一番ついていけないのは私たちの年代かなと。今の小・中学生はもう教科書もQRコードが載っている時代になりましたし、タブレットも貸出という時代になっていますので。頑張っついていかないと、ついていけないというところもあるかもしれませんが。この件について。

事務局（梅原生涯学習課長）

今は、紙だと、広報のほうに必ず載せるということと、プラスして広報にもQRコードを載せてホームページを見ることができる環境の方はそちらからということをやっておりますが、それ以上に周知する方法というのは、私たちも今どういことがあるかいろいろ試しているところなので、そこは引き続き考えていきたいと思います。

堀合副議長

はい、よろしいでしょうか。そのほか来年度に向けての提言ということで。ご発言いただいていない浅沼委員、何かありませんでしょうか。

浅沼清智委員

市のほうから本当にこういう様々なお便りをいただいて、今日の会議と外れると思うのですけれど、本校は今年度学校公開を迎えることになっていて、あわせて150周年の記念事業を行います。それについても、地域のほうから様々ご援助いただいたりもしているところではあるのですが。学校はコロナが明けて、学校独自でやらなければならなかった活動、オンラインにしても学校の中だけでやらなければいけなかったことが、今はまた地域、それからほかの団体と連携しながら子どもたちに指導していけるようになってきたということを感じています。

令和7年度に向けてという意見にはならないと思うのですが、学校が様々なことをしなければならなくなってきました。1人1台端末についてもそのとおりですし、小学校であれば英語の授業も当然ずっと続いています。様々なことを担任がそれぞれ自分で勉強しながら進んでいるのですが、そうではなくて、学校の外にたくさんの専門的にわかってらっしゃる方たちがいらっしゃるので、そういう方たちから力を借りながら子どもたちを育てていきたいというふうに考えています。

市のほうの事業でもいろいろあるのですけれど、すいません。こういう言い方をすると変なのですが、学校を助けてください。たくさんの方から助けていただきながら、小学校、中学校そして高校、大人になっていく。子どもたちをきちんと育てていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

堀合副議長

はい、ありがとうございます。伊藤委員はいかがでしょうか。何か意見がありましたら。

伊藤委員

ありません。

堀合副議長

わかりました。青年会議所の高橋委員はいかがでしょうか。

高橋和也委員

ありがとうございます。私も特にございませんけれども、強いて言うのであれば、5年度の報告と6年度の計画を皆さんどういう経緯でこれを計画されたのかということをごすごい気になって見えていました。あと、5年度でご参加された方々の生の声だとか、はたまたその企画されている方々の思いというのがどういう影響でこの6年度事業計画に反映されているのかということところが、自分も初見で恐縮なのですけれども、そのつながりが点と点で7年度につながっていけばいいと思いながら見えていました。建物の増改築等の修繕の報告はそのとおりだと思うのですけれども、毎年色を変えてやりたいところももっとこう、線で見えるような形になってくると。毎年毎年手を変えているけど、結局何がしたいのかということところに、説得力が乗っかってくるというよりも、参加する方たちも今年は花巻のこういうところを推したいのだとかそういうところも見えてくるのかなと思って見させていただきました、感想です。

堀合副議長  
松葉委員

感想ということですが。松葉委員はいかがでしょうか。

はい。私も初参加なのでよくわからないので、様子見したいと思います。スポーツもやりますし、芸術も音楽もやりますので次の機会からは発言したいと思います。

堀合副議長  
渡部委員

ありがとうございます。渡部委員はいかがでしょうか。

私も1回目なので、何をどう言ったらいいのかと思っておりましたが、東和学童クラブで今実際100人くらいを保育しているような状態にあります。(東和)図書館の親子映画会には、毎回参加しているのですがほとんどやっぱり学童の子どもだけで。きっと140人のほとんどが学童なのですね。なので、やっぱりさっきもお話ありましたが周知。企画をやるならやっぱり人は来てほしいと思うので、周知の仕方をもうちょっと考えてほしいと思うのと、あと図書館を利用したことがないという子どもがいっぱいいるのです。小さいときには親子で〇〇ということによって本に親しみましようとなるのですが、小学校に行くと学校の図書室で事足りるからなのか図書館を使わない。おうちの人と一緒にいって行ってくれれば。学童では、ちょっと時間つぶしもあって図書館に行くのですが。せつかく公共の施設があるのにもかかわらず使わない。使わない、使えない親御さんも多くなってきていると思うので、数多く企画をして、足を運んでもらって、そこで感じてもらうことを増やしてもらえればと思うのです。

小さい頃から、図書館だとか公共のものを使っていると、使い方とかルールもきちんと守れるでしょうし、市のものであればここは使っている、公共の場所だから行っていいという部分もわかってくると思うので、継続して使えるような仕組みを少し考えて

いただきたいと思います。ですが、いつも使わせていただいておりますのでありがとうございます。

あと一点、すいません。企画もいっぱいあるのですが、やっぱり学童もイベント、イベントまでいかないのですが何かないかと実はすごく探しているのです。ポスターを見て行っていいのかな、どうなのかなとか。萬鉄五郎記念美術館が歩いて10分くらいの場所にはあるのですが、やっぱり美術館は敷居が高いよなと思います。この前、博物館のほうに行かせていただきまして、急ぎよの雨だったので童話村での遠足を急ぎよ変えていただいて。勉強会みたいなことをしていただきましたし、そういうことができるというのが、実は初めて(知った)。保護者が博物館にいらしゃったからということもあるのですが、そういうところも。ほかの学童も、きっと夏休みとか代休とかどうしようということもすごく悩んでいて。そういうお知らせも1つぐらいいただくと、とてつもなく嬉しいと正直思っております。すいません長くなりました、ありがとうございます。

鈴木花巻図書館長

おっしゃっていただいたとおり、たくさんの人に来ていただく公共施設ですので、すべての市民に来ていただける、実際に来るかどうかはわかりませんが来ていただけるようにするというのが公共施設だと思っておりますので、そういった取り組みをしていかなければならないと思っています。企画の内容、魅力的なものをやっていくということはもちろん、今までと違う企画を考えていくということも、やっていきたいと思っています。

あとは、それをどうやって伝えるかというお話で、先ほど紙での伝え方はやっぱり今後も必要だということもありましたし、もっと今の時代に合った SNS とか、そういったものを使った周知ということも、特に図書館はどちらかというと遅れていると私自身思っていますので、そういったことにもこれから取り組んでいきたいと思っております。映画会ですとかいろんな形で、図書館のほうでも出向くこともできますので。ぜひ、ご相談いただければ、東和図書館でも花巻図書館でも結構ですのでご活用いただければと思います。

堀合副議長

はい、よろしいでしょうか。それでは、来年度に向けての意見等はこれでよろしいでしょうか。

菊池豊議長

先ほど浅沼先生のほうからも、これからはいろいろ地域の協力を得ながら進めたいというような意見も出ました。たぶんですね、これは昔から社会教育の中でやってきた学社連携ですね。ここをちょっと深めていかないとだめかなというふうに思います。花巻の場合は、先ほども学校の部活動が地域スポーツへという話をしたのですが、これは教育委員会のほうが担当します。これについ

ては、生涯学習部ですとかそういう振り分けといたしますか、お互い協力しなければ進まない点もたくさんあるかと思っておりますので、ぜひ教育委員会と生涯学習部、連携をとりながら進めていただければいいのかなと思っております。

それから、もう1つですね。先ほど今ほどこもネット社会になっているというようなことで話がありましたけれども、スマホ等が非常によく利用されています。この利用の仕方というのは、やっぱり問題があるなと思っております。自分の好みの情報だけをずっと探っているというところですね。ですから、社会全体がどんなふうに動いているのかということ、今の多くの人たちはつかみきれないでいるのかなというふうに思いますね。

生涯学習の中で非常に大事な学習の1つが偶発的学習というものがありますね。偶発的学習というのは自分が意図しないで、いろいろな知識・情報を得ることです。だから、テレビを見ていて、そこから情報を得ることです。ですから、テレビをボーッと見ていてもいろんな情報が入りますから、それによって世の中がどのように動いているかということを知ることができるのですが、スマホで自分の好きな情報だけ集めていくということが、ちょっとこれからの社会にとっては危険なのかなと。テレビを見てはダメと昔は言われたのですけれど、テレビを見るのも1つの学習と思っています。アメリカのように、トランプ現象が起きているということは、もう自分の好きな情報だけを手に入れていくということがあのような状況をつくり上げたかと思っております。いろいろな情報を得ることができるような環境をつくっていくということも大切なのかなと思っております。ありがとうございます。

堀合副議長

はい、たくさんのご意見等ありがとうございました。それでは、(2)については以上で終了して、議題の(3)その他に移りたいと思っております。その他について、皆さんから何かございますでしょうか。

はい、それでは以上で本日の議題については終了とさせていただきます。ありがとうございます。それでは、事務局にお渡しいたします。

## 5 その他

事務局（菊池生涯学習課長補佐）

菊池議長、それから副議長議事進行大変ありがとうございました。

続きまして、大きな5番のその他のほうに入らせていただきます。こちらのほうからは、新花巻図書館の整備についてということで、梅原新花巻図書館計画室長から検討状況について報告をいただきたいと思います。お願いします。

事務局（梅原生涯

では、新花巻図書館について今の状況を少しだけ報告させてい

学習課長)

ただければと思います。

先日開催された6月議会、そちらでも答弁しておりますので、その状況と同じというところもございますし、先ほどの事業説明のところでも若干触れさせていただきましたが、現在建設候補地が2か所に絞られておりまして、場所を選定するための資料となる建設候補地ごとの整備事業費や、その候補地に建設したときに駐車台数は何台になるか、イメージ図の作成などの比較できる資料の作成を委託しているところです。工期は今年の10月15日までとしておりまして、その調査結果も用いながら、建設候補地選定に向けて市民同士の意見交換を実施したいと考えております。この意見交換の方法については、ただいま公募型プロポーザルにより、その手法と運営する業者の選定を進め、実施に向けていろいろ準備を進めているところです。

次に、今回皆さんに配布したこの「新しい図書館の検討状況」という資料なのですが、こちらは新花巻図書館整備について試案検討会議でご意見をいただいていた内容など主にサービスの内容ですが、そういった検討状況について市民の皆さんに公開できるような状況になったということから、現時点の検討状況をまとめた資料です。同じ内容を、広報はなまき6月15日号でお知らせしておりますが、その広報の内容をより詳しくわかりやすくまとめた資料になっています。

簡単にご説明しますと、1ページ目については、整備基本計画や試案検討会議について、平成29年に市民参画を得て策定しました整備基本構想、それに定めている新花巻図書館の基本方針を説明しております。開いて2ページ目は、これまで検討を重ねてきたサービス内容について、わかりやすく数字やイラストを使って説明しております。3ページ目については、開館時間や本の構成、宮沢賢治などの先人の資料をどのように収集していくかということを書いております。最後のページの4ページ目では、新花巻図書館で提供する、今の花巻図書館でも提供しているサービスをどのくらい拡充していくかとか、新規のものを取り入れていくかとか、そういった今検討している状況をまとめた資料でございます。この資料は、皆さんが気軽に手に取ってご覧になれるように、各図書館や学校、振興センター等に配置しております。

新図書館について資料を見ていただいて、何かお問い合わせがあるときには計画室のほうでいつでも承っておりますので、お声がけいただければと思います。よろしく申し上げます。

事務局（菊池生涯  
学習課長補佐）

新花巻図書館の整備についてというところで、検討状況等々のご報告ということでお話をさせていただきました。この部分については、何か皆様のほうからありますでしょうか。はい、ありが



とうございます。図書館のほうにつきましては、引き続き様々検討しながら進めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、その他の2つ目ということで、ここは皆様のほうにお願いということになります。資料提供についてということで、皆様のお手元にA5版の名前とメールアドレスを書く用紙を添付してございます。何かといいますと、岩手県の社会教育連絡協議会からのお知らせとか、そういった簡易な事務文書が委員の皆様宛にたくさんまいります。そういったものをお送りする際に、通常では郵送でお送りいたしますが、電子メールをご希望される場合は、そちらのほうにお名前とメールアドレスをご記入いただきまして、事務局にいただけますと電子メールのほうでそういったお知らせを差し上げたいというふうに思いますので、メールで構わないという方はそちらのほうでお願いできればというものでございます。なお、社会教育委員会議の開催通知等の資料については、従来どおりこちらのほうは郵送でのお知らせをいたします。

それから、最後です。第46回全国公民館研究集会と書かれたものがあります。東北とかです。ね。ちょっと肩書がいっぱい。の大会なので。すけれども、今年度の第46回全国公民館研究集会・東北地区の社会教育研究大会、公民館大会が11月14日木曜日から15日金曜日に青森県青森市で開催が予定をされております。こちらのほう、参加を希望される場合ですが、8月20日までに生涯学習課のほうにご連絡をお願いいたします。

なお、参加費、旅費、宿泊費につきましては市のほうで負担できるように予算は確保してございますが、大変申し訳ございませんが都合上2人までという形をお願いをしたいと思いますので、お早めということでもよろしく願いいたします。詳しい内容につきましては、パンフレットのほう、コピーになりますけれども添付しておりましたのでご確認をお願いします。

事務局のほうからはその他は以上でございます。そのほか、皆様のほうから何かございますでしょうか。それでは、その後も終了させていただきます。

## 6 閉 会

事務局（菊池生涯  
学習課長補佐）

なお、次回の開催につきましては令和7年2月の下旬から3月にかけてという形で第2回を予定しておりますので、また改めてご連絡を差し上げます。

それでは、皆様大変ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第1回花巻市社会教育委員会議を終了いたします。大変ありがとうございました。